

2014年3月期 連結業績概要

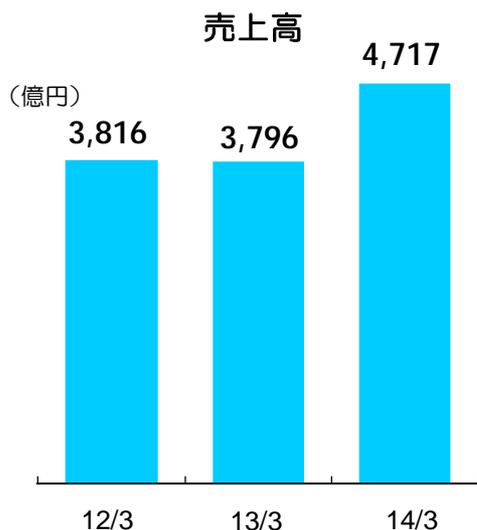
執行役員
桃塚 高和

2014年3月期 連結業績概要



(億円)	2013年3月期 通期実績 (2012.4.1~2013.3.31)	2014年3月期 通期実績 (2013.4.1~2014.3.31)	対前年同期比	
			増減	増減率(%)
売上高	8,418	9,845	1,427	17.0
営業利益	221	366	145	65.6
営業利益率	2.6%	3.7%	+1.1pt	-
継続事業税引前利益	198	398	200	101.0
継続事業純利益	51	218	167	327.5
非継続事業純利益	△ 6	△ 36	△ 30	-
非支配持分利益	33	19	△ 14	-42.4
当期純利益	12	163	151	1258.3
1株当たり利益	9円50銭	129円47銭	-	-
為替	対ドルレート	83円3銭	100円26銭	20.8%の円安
	対ユーロレート	107円5銭	134円42銭	25.6%の円安
為替変動による 影響金額	売上高：約1,475億円の増収 営業利益：約243億円の増益			

(注) 非継続事業（データテープ事業及びブルーレイ事業）除外後の実績値



売上高 4,717億円 (前期比24%増)、
営業利益 154億円 (前期は111億円の営業損失)

●セラミックコンデンサ

前期に構造改革実施し、1Qより黒字定着
自動車市場向け販売好調

●アルミ電解・フィルムコンデンサ

産機市場向け受注回復、自動車市場向け販売好調
により前期比増収増益

●インダクティブデバイス

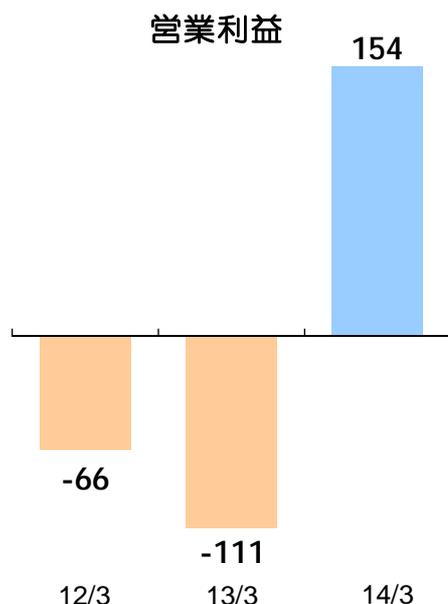
自動車市場向け販売好調
品種構成の良化により、前期比で大幅な増益

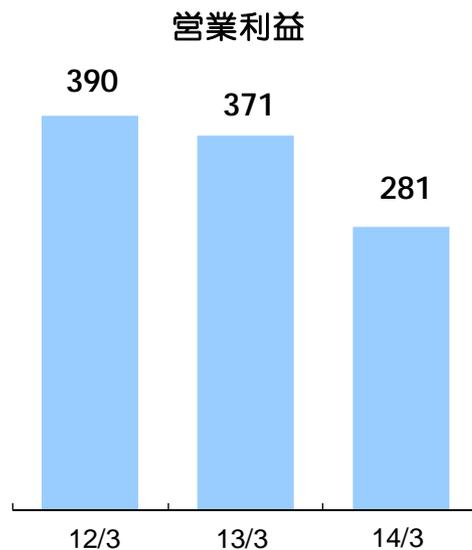
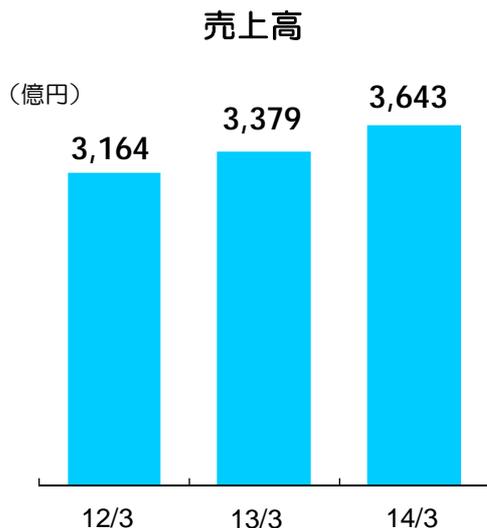
●高周波部品

スマートフォン、タブレット端末向け販売増
生産性の改善等により、前期比で赤字縮小

●圧電材料部品

自動車向け部品及びカメラモジュール向けVCMの
販売増加により、前期比で増収増益





売上高 3,643億円（前期比8%増）、
営業利益 281億円（前期比24%減）

●記録デバイス（HDDヘッド）

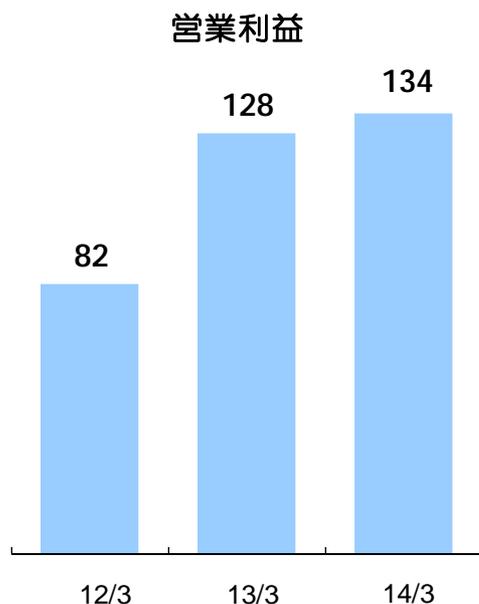
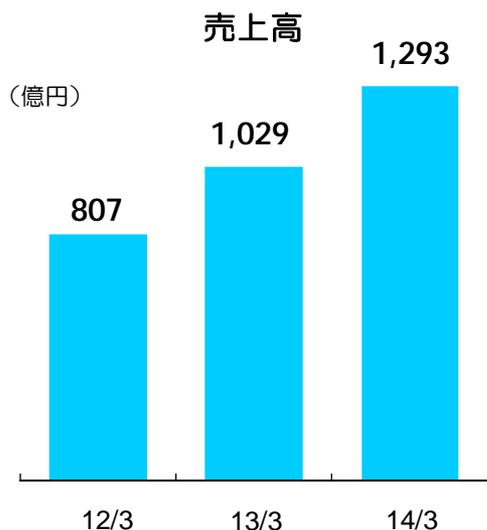
出荷数量は、タイ洪水特需のあった前期より大幅減少も生産性改善効果や品種構成の良化により営業利益は微減

●マグネット

レアアース価格変動による売価下落、海外拠点集約による一時費用等により、前期比減収減益（前期はタイ洪水保険金収入42億円あり）

●電源

産業機器市場向けの販売が回復し、収益性も前期比改善



売上高 1,293億円 (前期比26%増)
営業利益 134億円 (前期比5%増)

- エナジーデバイス (二次電池)
スマートフォン、タブレット端末向けの販売が好調に推移し、前期比で大幅な増収増益
- アプライドフィルム
データテープ事業、ブルーレイ事業から計画通り撤退完了 (非継続事業)

2014年3月期 セグメント別通期実績



		2013年3月期 通期実績		2014年3月期 通期実績		対前年同期比	
		金額	%	金額	%	増減	増減率 (%)
売上高	(億円)						
	コンデンサ	1,180	14.0	1,396	14.2	216	18.3
	インダクティブデバイス	1,196	14.2	1,403	14.3	207	17.3
	その他受動部品	1,421	16.9	1,917	19.5	496	34.9
	受動部品合計	3,796	45.1	4,717	47.9	921	24.3
	記録デバイス	2,335	27.7	2,567	26.1	232	9.9
	その他磁気応用製品	1,044	12.4	1,076	10.9	32	3.1
	磁気応用製品合計	3,379	40.1	3,643	37.0	264	7.8
	フィルム応用製品合計	1,029	12.2	1,293	13.1	264	25.7
	その他	214	2.5	193	2.0	△21	△ 9.8
合計	8,418	100.0	9,845	100.0	1,427	17.0	
営業利益	受動部品	△111	△ 2.9	154	3.3	265	-
	磁気応用製品	371	11.0	281	7.7	△90	△ 24.3
	フィルム応用製品	128	12.4	134	10.4	6	4.7
	その他	△18	△ 8.4	△32	△ 16.6	△14	-
	小計	371	4.4	537	5.5	166	44.7
	全社および消去	△150		△171		△21	
	合計	221	2.6	366	3.7	145	65.6

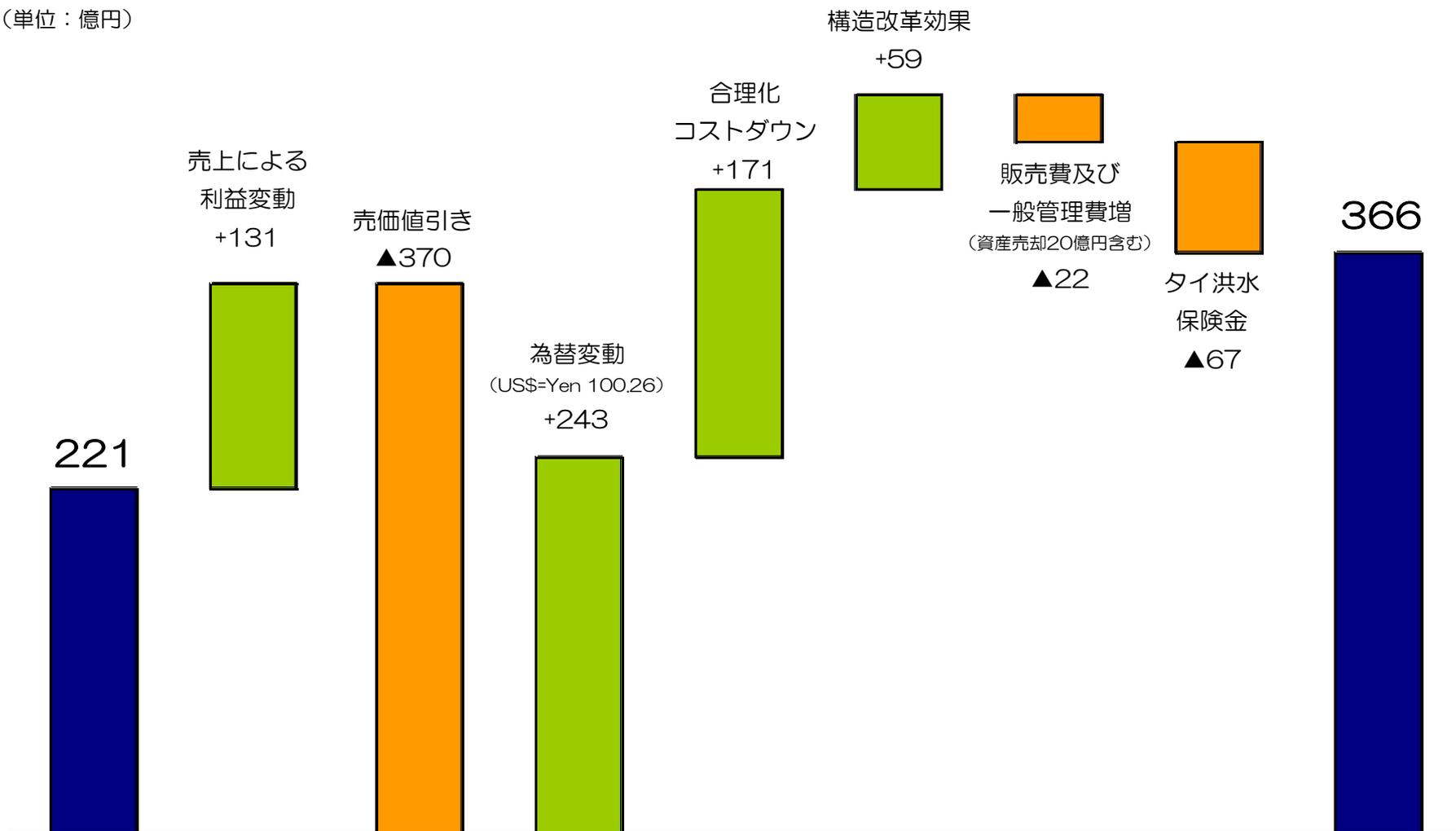
営業利益増減分析

2013年3月期
221億円

営業利益 +145億円

2014年3月期
366億円

(単位：億円)



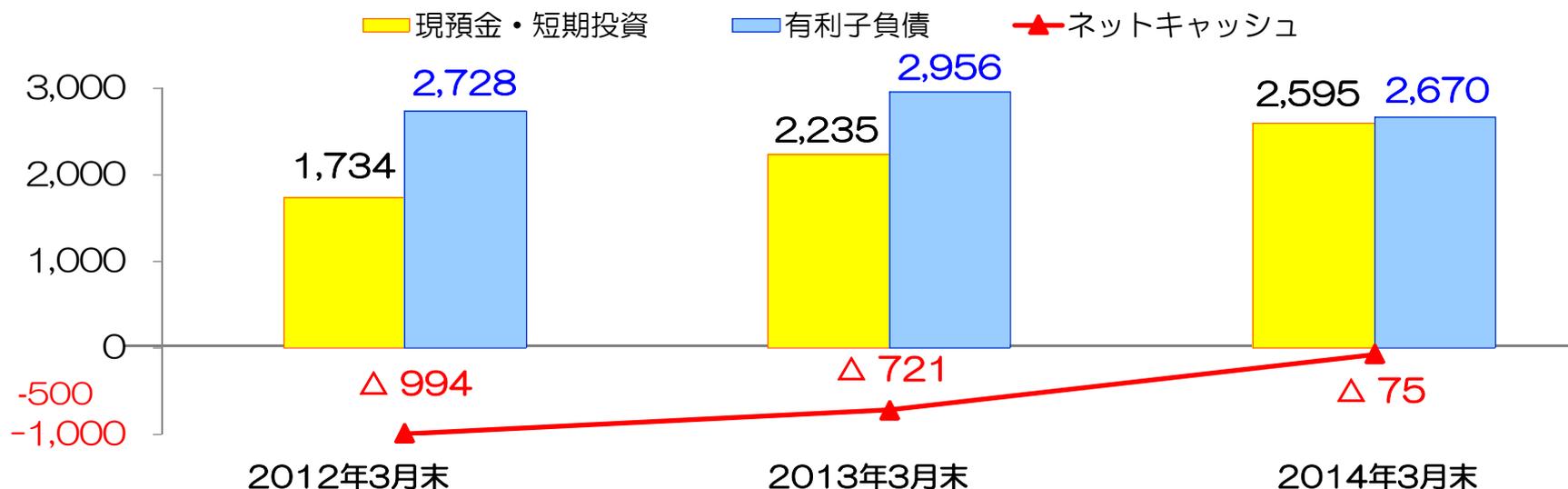
セグメント別四半期実績



(億円)		2013年3月期 第4四半期 (2013.1.1~2013.3.31) (A)	2014年3月期 第3四半期 (2013.10.1~2013.12.31) (B)	2014年3月期 第4四半期 (2014.1.1~2014.3.31) (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対直前四半期増減 (C) - (B)	
		増減	増減率(%)	増減	増減率(%)			
売上高	コンデンサ	307	347	361	54	17.6	14	4.0
	インダクティブデバイス	312	349	349	37	11.9	0	0.0
	その他受動部品	425	475	471	46	10.8	△ 4	△ 0.8
	受動部品合計	1,044	1,171	1,181	137	13.1	10	0.9
	記録デバイス	576	690	612	36	6.3	△ 78	△ 11.3
	その他磁気応用製品	245	268	283	38	15.5	15	5.6
	磁気応用製品合計	821	957	895	74	9.0	△ 62	△ 6.5
	フィルム応用製品合計	265	410	291	26	9.8	△ 119	△ 29.0
	その他	54	43	58	4	7.4	15	34.9
	合計	2,184	2,582	2,425	241	11.0	△ 157	△ 6.1
営業利益	受動部品	△ 39	61	3	42	-	△ 58	△ 95.1
	磁気応用製品	18	103	54	36	200.0	△ 49	△ 47.6
	フィルム応用製品	20	68	11	△ 9	△ 45.0	△ 57	△ 83.8
	その他	△ 3	△ 8	△ 8	△ 5	-	0	-
	小計	△ 4	224	61	65	-	△ 163	△ 72.8
	全社および消去	△ 31	△ 44	△ 45	△ 14	-	△ 1	-
	合計	△ 35	179	17	52	-	△ 162	△ 90.5
	営業利益率	-1.6%	6.9%	0.7%	+2.3pt	-	-6.2pt	-
為替	対ドルレート (円)	92.20	100.38	102.97				
	対ユーロレート (円)	121.74	136.56	141.12				

(億円)	2012年 3月末	2013年 3月末	2014年 3月末	増減 2013-2014
総資産	10,728	11,696	12,396	700
負債合計	5,608	5,890	5,873	-17
株主資本	4,982	5,612	6,353	741
(うち包括利益)	△ 2,308	△ 1,590	△ 871	719
株主資本比率	46.4%	48.0%	51.3%	3.3%

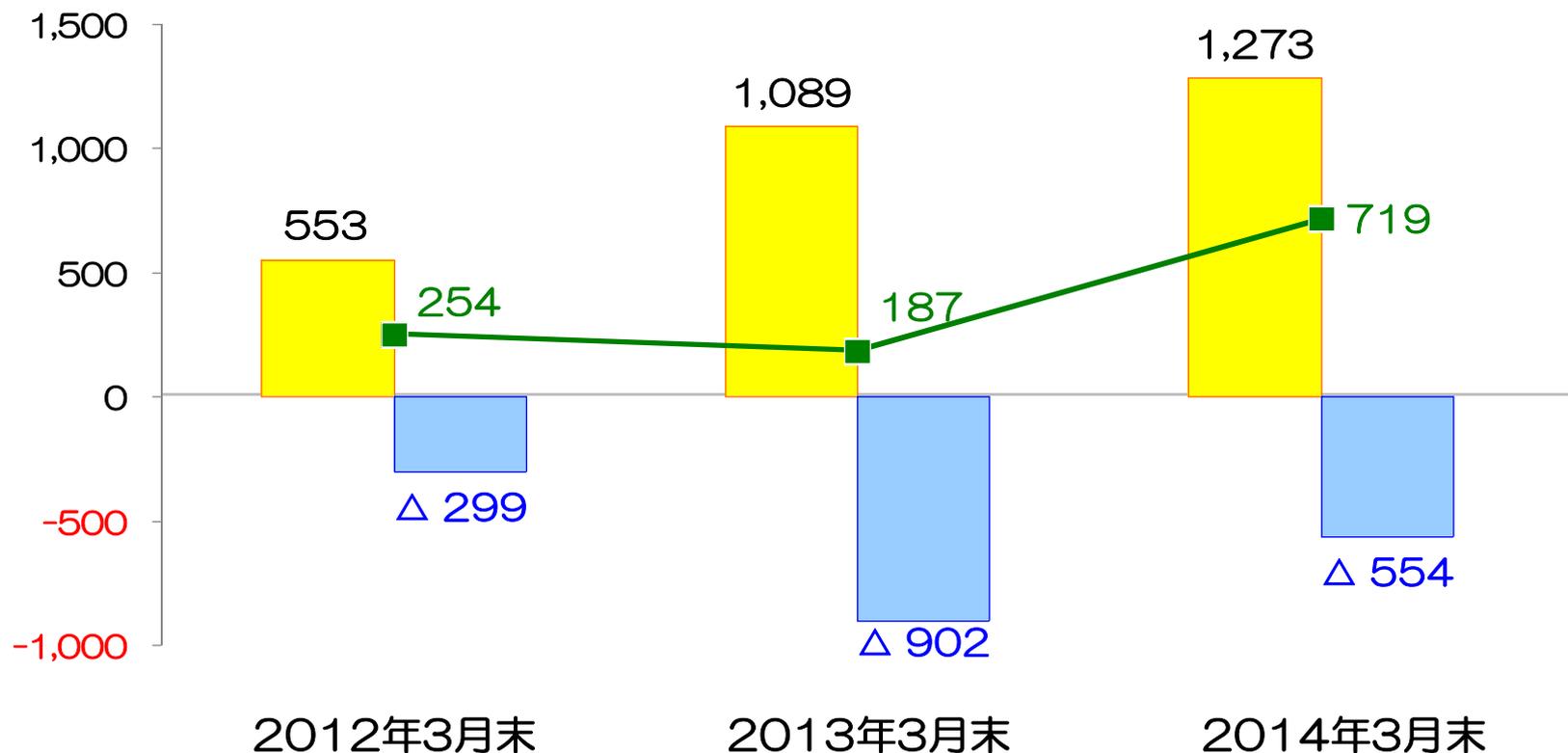
現預金・短期投資	1,734	2,235	2,595	360
有利子負債	2,728	2,956	2,670	-286
D/Eレシオ	0.55	0.53	0.42	-0.11
ネット・キャッシュ	△ 994	△ 721	△ 75	646



フリー・キャッシュ・フロー

■ 営業キャッシュ・フロー
 ■ 投資キャッシュ・フロー
 ■ フリー・キャッシュ・フロー

(億円)



	2013年3月期	2014年3月期	増減
固定資産の取得	856	686	△ 170
減価償却費	774	829	55

●HDD市場

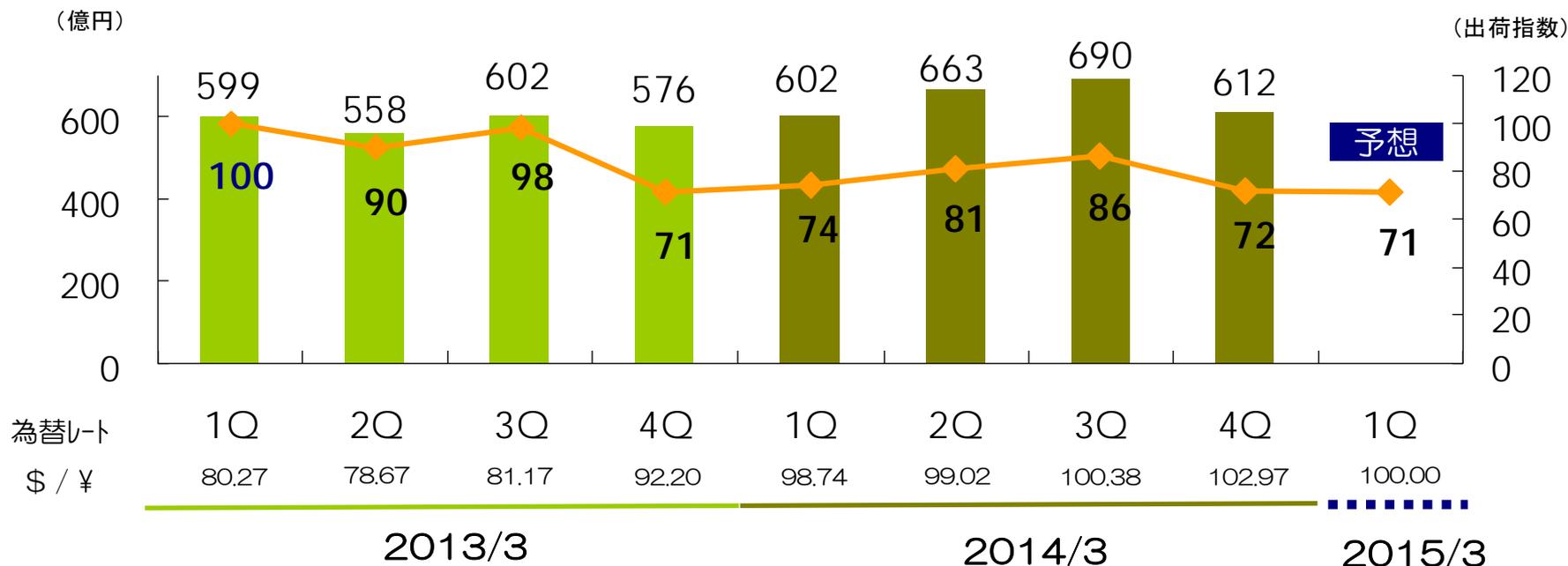
2014年3月期：約5.52億台（当社推定）

2015年3月期：約5.35億台（当社業績予想の前提）

●出荷指数

■ 記録デバイス売上高（左軸、HDD用ヘッド及びHDD用サスペンションを含む）

◆ ヘッド（HGA）数量出荷指数（右軸、2013年3月期第1四半期の出荷数量を100とした場合の指数）



■2014年3月期に実施した構造改革

事業ポートフォリオ
見直し推進



- 非中核事業からの撤退（非継続事業）
（LTO、ブルーレイ事業）
- 他事業及び製品毎の見直し

生産拠点最適化



- 国内外拠点の統廃合
（海外生産拠点を中心に実施）

■構造改革費用と効果見込

2014年3月期構造改革費用（億円）

継続事業	非継続事業	年間計
71	34	105

2014年3月期構造改革効果： 23億円

2015年3月期構造改革効果見込：40億円



大規模構造改革完了

成長分野・中核事業へ
経営資源を集中

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載をいたします。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2014/4q_1.htm